



読字 萩原田 親

No. 610

2010/7/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-0045 東京都文京区
西日暮里1-1-1 東武池袋線

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236
岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8011
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



なんでももの なんでもあつこと しっかりと 手をとりあおう

第59回全国大会より

貝吹佳代子



感じさえしまし
た。

北海道から沖
縄まで、320名の
参加で開かれたこ
の大会には、皆さ
ん色々な問題を抱
えながら、「日中
不再戦」を軸とし
て仲間づくりの活
動をされておられ
ます。

苫小牧支部の方の
会員は9人です。
その中で活動でき
るのは2、3人し
かないません。でも、
沙飛の写真展には

6月12・13日、第59回全国
大会が東京晴海で開催されま
した。
目の前にベイブリッジが見え
る会場と全国から320名とい
う参加者に、ただ圧倒されるば
かりでした。それはまるで、日
中友好協会という大きな船が
大海原に出航するかのような

450人もの方々が来てくれま
した。「また、都城支部の方の口
蹄疫という大変な状況の中で
仲間づくり、等々・・・本当に
頭が下がる思いと同時に、だっ
たら、今の私には何ができるの
かと、改めて考えさせられま
した。
そしてフィナーレに、約580人

で歌った「東京—北京」この歌
詞の中の「さえぎるもの」なん
であらうと「しっかりと 手をと
りあおう」この言葉を胸に、私
なりにできることを一歩ずつ、
取り組んでいきたいと思いまし
た。

中国ブロック会議、そして全国
大会と、まだ理事になって一年
たらずですが、貴重な体験をさ
せていただいたことに感謝しま
す。



倉敷支部 福田広史さん

草の根の運動を 楽しく

6月12日～13日の2日間、
東京都の晴海客船ターミナルホ
テルにて日本中国友好協会第
59回全国大会が開催されまし
た。

私も評議員として参加させて
いただきました。仕事上の流れ
で入会して2カ月、正直何も分
からないままの参加でしたが、
とても勉強になる2日間でし
た。簡単ですが紹介させてい
たきます。

まず、全体会議が両日とも行
われ、各都道府県から36人も
の方々が発言されました。戦争

責任の問題、会員拡大の問題、
不再戦の問題など、各支部で旺
盛に取り組んでいる様々な活動
報告を受け、各地の真剣な取
り組みが自身の中でとてもいい
刺激になりました。

今まで核兵器廃絶に向けた取
り組みへ力を注いできた私です
が、日中友好活動も重要な平
和活動のテーマであることを認
識しました。

これから岡山の地でも、草の
根の活動を楽しく取り組んでい
きたいと思えました。参加させ
ていただき、ありがとうございました。
倉敷支部 福田広史



左から 貝吹さん 宮地さん 西森さん 福田さん



発言している西森さん

「中国残留邦人援護担当市町村 職員等研修会」に参加して

縁あつてこの4月から総
社市の中国残留邦人支
援・相談員になりました。

中国語に自信がないので不
安ですが、岡山や倉敷の日
本語教室で帰国者との付
き合いは永いので、何かお
役に立てればと引き受け
ました。

6月16日総社市の担当
職員の方から誘われて、市
町村の援護担当者の研修
会に行きました。

広島の「中国帰国者支
援交流センター」の方から
帰国者の現状や問題点、
これからの取組みなどの報
告の後、帰国者2世で現在交流
センターの就労・生活相談員を
している金山さんの体験談を聞
きました。

言葉が通じないために馬鹿に
されたり、仕事上でもつらい体
験をするなど言葉の壁がいかに
帰国者を苦しめているか実感し
ました。今流暢な日本語で話さ
れている金山さんはどれほど努
力されたことだろうと頭が下が
りました。

2007年新支援法が成立、
2008年4月支援給付が始ま
り大変よかったです。まだ
担当職員の中には生活保護と



体験発表をする帰国者2世の金山さん

同じように扱う人があり、新支
援法の意味が十分理解されて
ないような気がします。帰国者
には日本語の不自由な人が多
く、十分な説明もされず不安
を感じているひとも多いよう
です。

支援・相談員はもちろんです
が、孤児訴訟や日本語教室な
ど周りで支えてきた人々の助け
がまだまだ必要だと思いまし
た。新支援法がしっかり根付い
て、帰国者の方々が安心して暮
らせるようになるまで皆で応援
していきましょう。

荒武 俊子

第80回日中文化講座

「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」

石子順氏 講演 ④

四川のうたは、一つの国家事業が閉鎖されていく悲しみを描くんです。皆幸せのために働いてきたはずなのに、今、自分たちは幸せかどうか分からないという状況なんです。この映画の場面で、労働者であるお母さんが働いている労働現場を、たまにお母さんに用があった娘が、お母さんが紺色の作業着を着て大きな鉄の塊を運んでいるのを見るんです。それを見ると、悲しいというよりも、何てお母さんは働いているんだらうという気持ちになって、それまでは、お母さんが労働者だということ

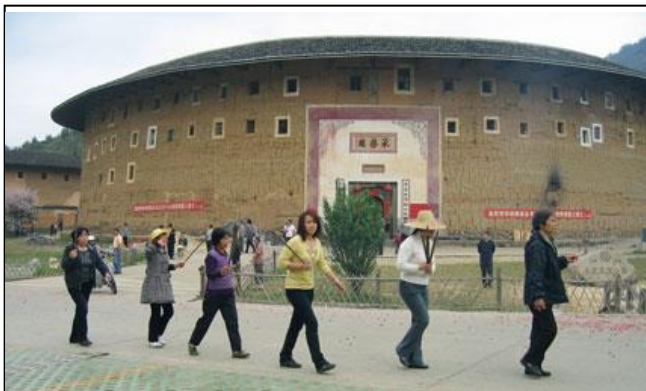
を恥ずかしいと思っていたんだけれど、そういうお母さんの姿を見て、恥ずかしいという気持はどうか飛んでしまつて、でも声をかける勇氣も無くて。と語っている人は、その人も働いているわけですが、その日は久しぶりに我が家に戻つてお母さんの作つてくれたご飯を食べて、お母さん久しぶりだね。お母さんも何で来たのかも聞かないし、彼女もお母さんの働いている姿を見たんだよとも言えないし。そして最後に、まだ三十代の彼女が言うんですよ、絶対私は、両親を『24城』に住まわせる。

だって私は労働者の娘だからね。」と言うんですよ。労働者の娘だからと誇り高く言うんですよ。でも、自分は労働者という意識はないんですよ、仲買人のようなことをやっているわけですから。車を乗りまわして、大変ブルジョワ的な生活をやっていくわけですよ。でも、労働者だったという意識と、社会主義になつて皆が幸せになつていくというんじゃない、それぞれがそれぞれの才能で幸せになつていくんだという、今の時代の中で、自分は労働者ではないけど、労働者だった両親のために高いアパートを買つて住まわせる。絶対それをやるというのは、労働者の根性が自分にもあるからだ。」という変な労働者の意識なんです。

つづく

中国・福建省に行ってきました。⑤

真田 紀子



土楼から出てきたところ、前の道路で爆竹が鳴らされています。若い人が数人、長い爆竹を道路の端に次から次へと並べていきます。バスへ戻ってきたガイドさんの説明によると、この村で葬式が行なわれていて、葬式のある家から村の出口まで、ザーと爆竹を鳴らして葬列を送るそうです。その話を聞いてみると、ちょうどバスの側で、ものすごい音で爆竹が鳴り、その後を葬列らしき人々が通り過ぎていきました。服装は普通で、日本のような喪服という感

じではありませんでしたが、今、写真を見ると、一番前の男性は黒のスーツ姿ですね。その後を音楽隊が演奏をしながらついていきます。随分にぎやかなお葬式です、これも土地柄なのでしょう。発車したバスが葬列を追い越していきます。来た道に戻るのですが、車窓には、今も人が住んでいる色々な形の土楼が見えます。階数も2階建て、3階建てなど、様々です。本当はもっとゆつくり見たいのですが、ツアーですので仕方ありません。

つづく

「一緒にお茶しませんか!!」日中おしゃべりサロン

貝吹佳代子



我が孫の守りなど、いろいろな事情で教室に来られなくなった方も増えてきました。

日本語教室ですから、2時間勉強しないと、というイメージがあります。なので、教室を離れるとなかなか腰を上げる勇氣というか、敷居が高いような、これはわたしのかんそうです。

でも、不安やストレスを抱えて日本で生活していく中で、せめて「おしゃべり」だけでもできるような、子供や孫も連れてこられるそんな空間があれば。そういう思いがふつとわいてきました。そしてそのことを小林事務局長に相談しましたところ、やってみたらいいよ」と、この一言で何か背中を押された気持ち

ちになり、この3月にプレオープンをして、毎月一回、4,5,6、と三回開くことができました。場所は福祉プラザさいでんです。

5月は「抹茶を楽しむ」ということで、成田さんに指導していただき、その上、ご主人の手作りの饅頭までごちそうになり帰国者の方も「おいしい!!」と喜んで私が点てると、お茶の泡ができない」と、おしゃべりしながら、アツという間の3時間でした。先月も夏みかんゼリーを作り、参加者は子供を入れて13人でした。すごいです!!

少しずつですが、言葉も、生活習慣も違う国に来て、縁あって教室で出逢い、そして一緒に次の新しいことを始めていけたらと思います。

最後に、私の好きな言葉、人は人で磨かれるを忘れずに、アンダンテ(歩く速さ)で行こうと思います。



一人で悩んでいませんか?

岡山県ライフサポートセンタが中国人向けに、生活相談、労働相談を受け付けています。

受付内容:労働相談

(労働条件、賃金未払い、雇用など) 求人、無料職業紹介、交通事故など。生活相談全般

TEL : 0800-200-3410 (無料) (携帯に対応)

時間: 金曜日 10:00-18:00 (相談は無料)

(弁護士による相談は一回目無料)

(但し、裁判や実務依頼されるケースの場合は、それぞれの取り決め額の支払いとします。)

場所: 岡山市北区津島西坂 1-4-18

労働福祉事業会館 2階

次回の新聞送付作業は
7月21日(水)午後1時半
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

稲葉吹内和
貝小竹内和
竹内井森垣
坪西三垣